

# 大阪産業創造館ネットモニター調査 -No.80 '19年3月期-

(ご協力いただいたモニター数: 187社、調査期間: 2019年4月1日~9日)

公益財団法人 大阪産業局

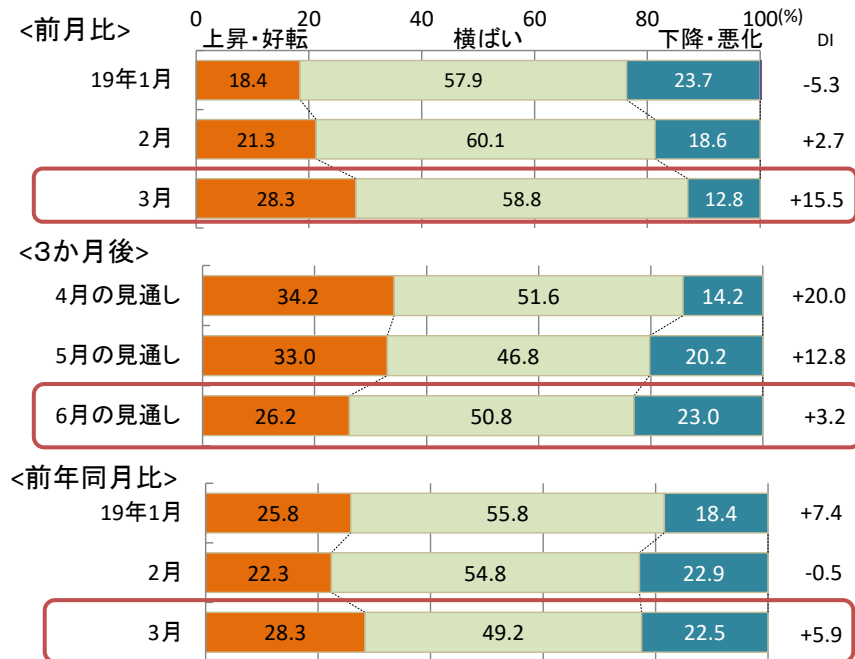
4/18 発表 <http://www.sansokan.jp/tyousa/> tel:06-6264-9815

## 《 3月の景況判断に関する要点 》(図A、図B、図C)

### 「景気は、年度末需要もあいまって、反転し回復の動き」

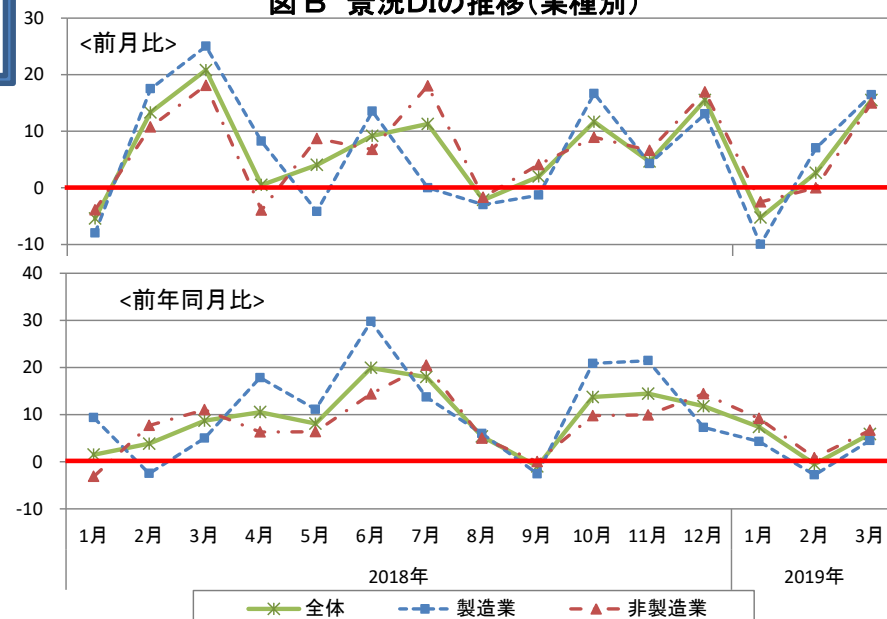
- ・3月の景況(前月比)をみると、「上昇・好転」割合は連続増加で28.3%、「下降・悪化」は連続減少で12.8%、DIは大幅上昇し+15.5、3ヵ月ぶりの高水準。
- ・業種別DIは、製造業が上昇持続で+16.4、非製造業は大幅上昇で+15.0。両業種とも相当幅の上昇で、年末需要期以来、3ヵ月ぶりに揃って10台半ば。
- ・<上昇・好転要因>は、年度末需要もあって、「時期的、季節的な要因」が5割強の水準を持続。「内需が増大したから」は減少し4割強。この2つに集中。
- ・<下降・悪化要因>は、「内需が減少したから」が小幅に減少、「時期的、季節的な要因」は大幅上昇し、ともに4割台半ば。「輸出の減少」がやや増加。
- ・3ヵ月後(6月)の見通しは、「上昇・好転」が26.2%、「下降・悪化」が23.0%で、DIは今月の前月比を12ポイント下回るも+3.2、極めて緩やかな改善が持続。
- ・3月の前年同月比は、「上昇・好転」が増加、「下降・悪化」は横ばい、DIは4ヵ月ぶりの反転上昇となり、マイナス圏を脱して+5.9。業種別DIも、ともに6~7ポイントの反転上昇。製造業はマイナス圏を脱して+4.5、非製造業は+6.7。

### 図A 景況判断

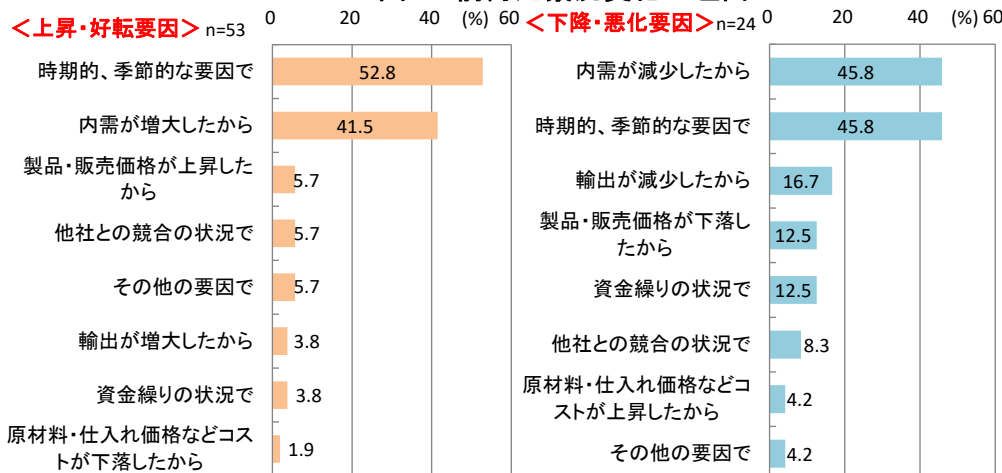


\* DI(Diffusion Index)は、「上昇・好転」の割合から、「下降・悪化」の割合を引いた数字。景気動向を表す指標のひとつ。

### 図B 景況DIの推移(業種別)



### 図C 前月比景況変化の理由



## 《 皇位継承や改元によるビジネスへの影響の方向性と程度 》

(図1)

- 5月の皇位継承に先駆けて、4月1日に新たな元号が発表されました。こうした一連の大イベントについて、①天皇陛下の退位と平成時代の終焉、②皇太子の新天皇即位、③平成から令和への改元、の3つに区分して、ビジネスに及ぼす影響の方向性と程度をたずねました。
- その結果、共通的な傾向として、「ほぼゼロ」が7～8割と大半を占めること、「わからない」が1割前後あること、「(やや)マイナス」は3～5%と僅かにすぎないこと、である。
- 残る1～2割に着目しつつ、3つを比較すると、③改元が「(やや)プラス」が最も多く、全体では15.0%（製造業：9%、非製造業：18.3%）を占め、「(やや)プラス」から「(やや)マイナス」を引いたDIは10.2を誇る。これが示唆するところは、“令和”にあやかっただけの新しい商品開発やネーミング付け、イベント的催しが様々な業種で気兼ねなく可能となるためであろう。
- 次いでDIが高いイベントは②新天皇即位であり、製造業では③改元とはさほど変わらない程度の「(やや)プラス」となっている。他方、非製造業の「(やや)プラス」は半分以下にまで減少している。これは、②新天皇即位にあやかろうとすれば、どうしても人物像や品位を考慮しないわけにはいかず、軽い感じの打ち出し方が困難なためであろう。
- ①天皇退位/平成終焉に関しては、平成を通じた蓄積的なもの（写真など）が無いと扱い難いことが壁となって、プラスの影響を享受できる業種等が限られることが、低DIの原因であろう。

## 《 新元号発表に際して、事前対応等のため確保したい準備期間 》(図2)

- 今回の新元号発表は1か月前だったが、果たして十分な準備期間であったのか、についてたずねた結果、「わからない」が1/4余りあって、それ以外の結果もかなりバラついた感がある。
- 具体的に見ると、「1か月程度」が最大であるものの、3割弱に過ぎない。以下、「2、3か月程度」が2割強、「半年程度」が1割強であった。これら以外の回答は数%に過ぎないことから、⇒

図1 皇位継承や改元によるビジネスへの影響の方向性と程度

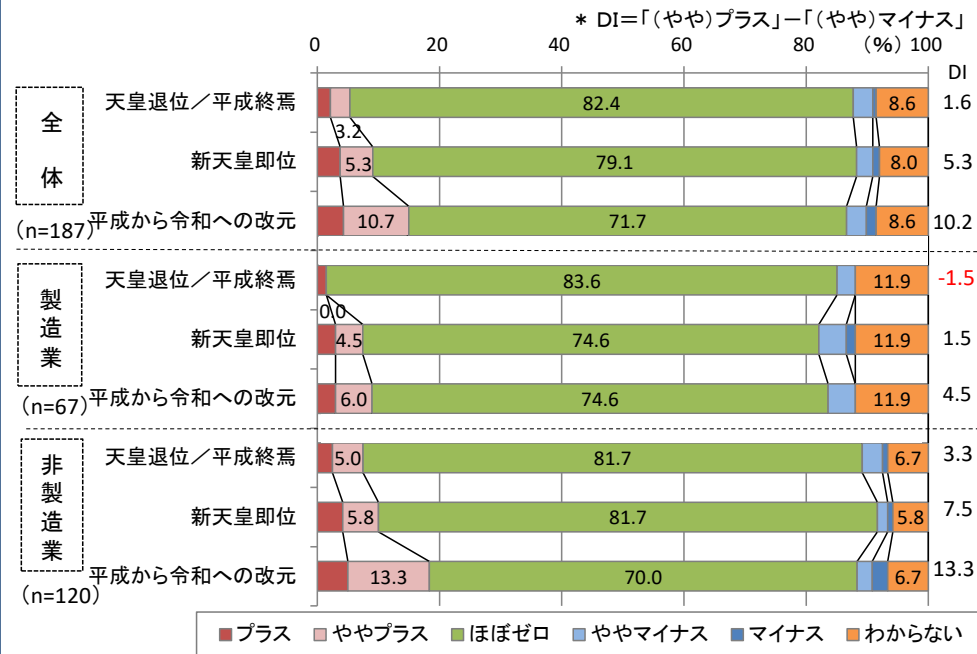
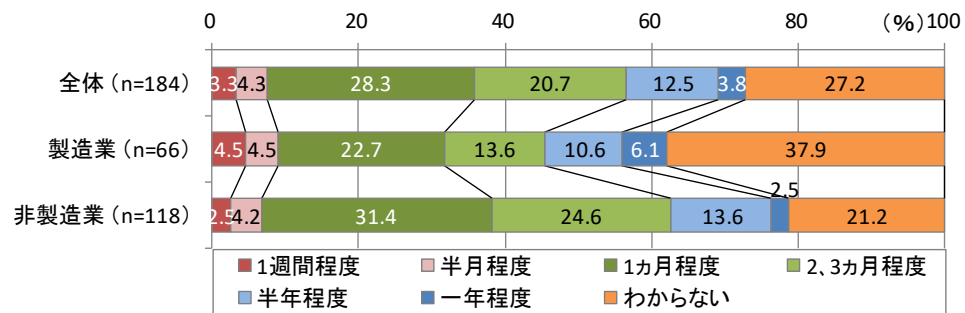


図2 新元号発表に際して、事前対応等のため確保したい準備期間



今回の『1か月前』はおおむね妥当な時期であったと言える。

- 業種別では、製造業で「わからない」が4割近くに達するのに対して、非製造業では2割強に過ぎない点が最大の違いである。ただし、それを除いた傾向は、第1位～第3位の順序が同じであることから、概ね類似していると言える。

### 《 社内の事務処理における元号と西暦の使用状況 》 (図3)

- 31年ぶりに元号改定の機会を迎えているが、この機会に、社内の事務処理において使用するのが、元号であるのか、西暦なのか、について、現在と将来の方針に分けてたずねた。
- この結果、まず、現在において、最大は「基本は西暦」が3割台半ばを占めた、以下「同程度に使用」が2割台半ばで、「基本は元号」と「西暦のみ」がともに2割弱の第3位であった。
- 他方、将来方針をみると、最大は「基本は西暦」と「西暦のみ」が同率で3割強となった。「基本は西暦」が 現在よりも僅かに割合が減少したのに対して、「西暦のみ」は15ポイント以上も伸長した。このような『西暦派』の伸長は、「同程度に使用」が10ポイント余りも減じたことや、「基本は元号」も8ポイント近くも減じたことから指摘できる。
- 業種別に見ると、傾向は類似しているものの、グローバルに流通するモノを扱う製造業の方が現在も『西暦派』が優勢で、将来は「西暦のみ」が4割弱にまで伸長する見通しである。

図3 社内の事務処理における元号と西暦の使用状況

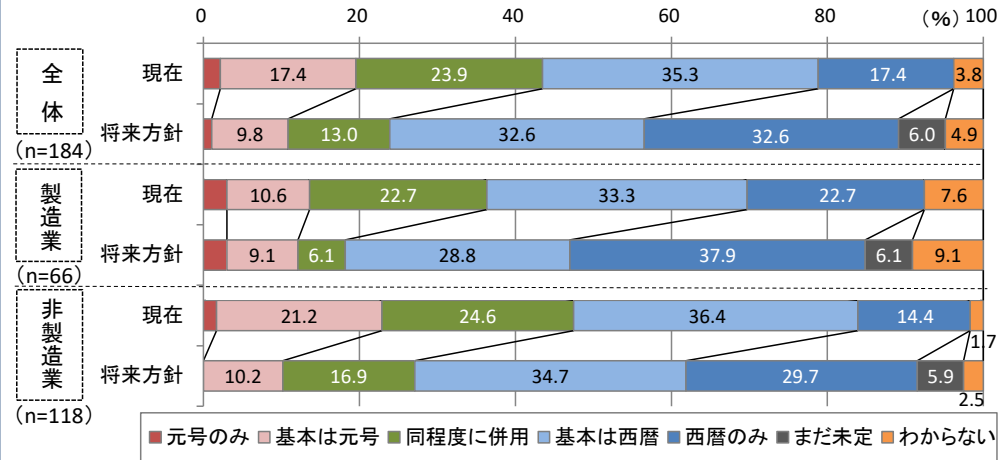
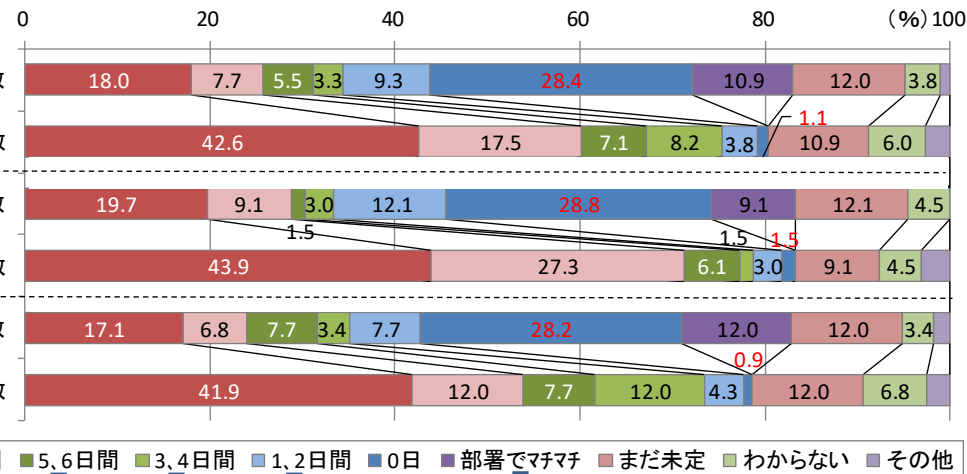


図4 10連休中における会社の休業日数、従業員の平均休日日数



\* 従業員休日日数: 8, 9日間 6, 7日間 4, 5日間 1~3日間 平均であり、選択肢無し これら以外は会社休業日数と同じ

### 《 10連休中における会社の休業日数、従業員の平均休日日数 》 (図4)

- 今年のGWは暦上、例外的に10連休となるが、果たして会社としての休業日数がどの程度となるのか、他方、従業員の平均休日日数(連休前後の調整期間も含む)はどの位を確保するのかをたずねた。
- 選択肢が完全に一致していないため、厳密な比較はできないものの、明らかに指摘できることは、会社の休業日数はさほど多くない企業でも、従業員には精一杯、休日を確保しようとする姿勢である。
- 例えば、「10日間」休む会社は2割弱に過ぎないが、従業員では4割強にも達し、25ポイント近い差が生じている。逆に、「0日間」しか休まない企業は3割弱に達する⇒

も、従業員で休日が「0日間」の割合は1%に過ぎない。これらの中間的な日数ランクをみても、会社休業日数よりも、同ランクの従業員休業日数の割合の方が、多い傾向にある。

・業種別では、製造業と非製造業の差は大きくないが、製造業の方が、特に従業員の休日が長期である傾向がある。装置稼働など、就業スタイルの影響が出ていると思われる。

### 《 10連休によるプラス面の具体的影響 》(図5)

- まず、連休によるプラス面の影響をたずねた結果、「従業員のリフレッシュ効果」が3割台半ばで最大であり、次いで「特にない」が2割台半ばを占める。以下、「まとまった時間確保に伴う需要喚起」が2割強、「気持ちの高揚感からの消費喚起」が2割弱、「国内観光需要増に伴う消費喚起」が1割台半ばと続く。
- 業種別では、いくつかの影響項目で差が見られ、製造業の方が「従業員のリフレッシュ効果」や「設備更新／オフィス移転などの実施」で10ポイント前後、非製造業よりも多くなっている。
- 具体的影響を回答した総数(「特にない」と「わからない」を除く)は203件で、一者平均、1.7個の影響を指摘している。

### 《 10連休によるマイナス面の具体的影響 》(図6)

- 次に、マイナス面の影響では、「連休前後に集中する代替需要への対応」と「本来なら平日の3日間の消費減少」とが25%超であり、「連休前後での従業員の業務効率低下」への懸念が23%、「従業員の休日シフト体制の調整業務」が19%と続く。
- プラス面と比較して、「特にない」が15%に過ぎず、11ポイント以上も少ない。
- 業種別では、上位3つで製造業の方が多く、特に「本来なら平日の3日間の消費減少」では10ポイント以上も多い。
- 具体的影響を回答した総数(「特にない」と「わからない」を除く)は236件で、一者平均、1.8個の影響を指摘している。

### 《 10連休に関する総合的な影響の方向性と程度 》(図7)

- 上記のプラス面とマイナス面を総合した影響についてたずねた結果、「ほぼゼロ/どちらでもない」が3割台半ばで最大であるが、以下、「マイナス」と「ややマイナス」が2割強であり、「(やや)プラス」よりも2.5倍近くも多い割合となっている。
- 総じて、ややマイナスと言えそうであるが、経営者の傾向としてややネガティブに捉えがちな側面を勘案すると、実態的には「ほぼゼロ」と捉えても良さそうである。
- 業種別では、大きな違いは無いものの、製造業の方が「マイナス」が7ポイントも多いなど、ややマイナスに作用している。

図5 10連休によるプラス面の具体的影響 (最大3つまで)

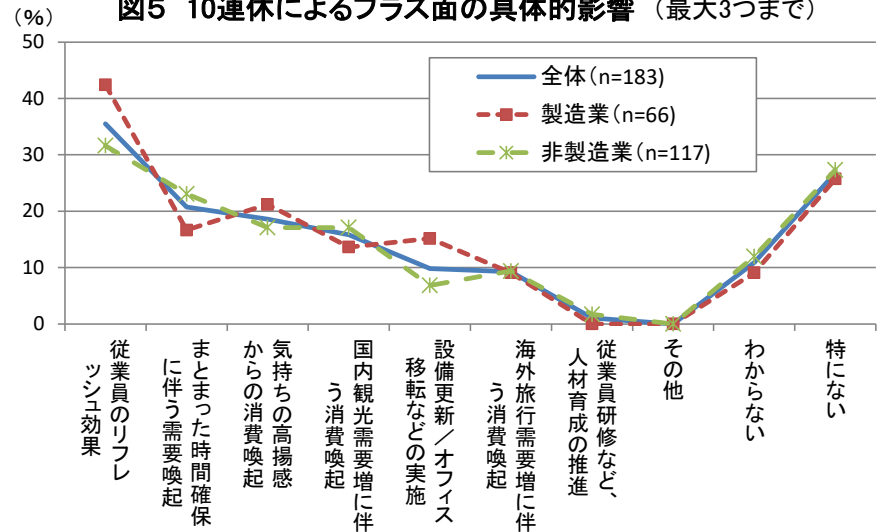


図6 10連休によるマイナス面の具体的影響 (最大3つまで)

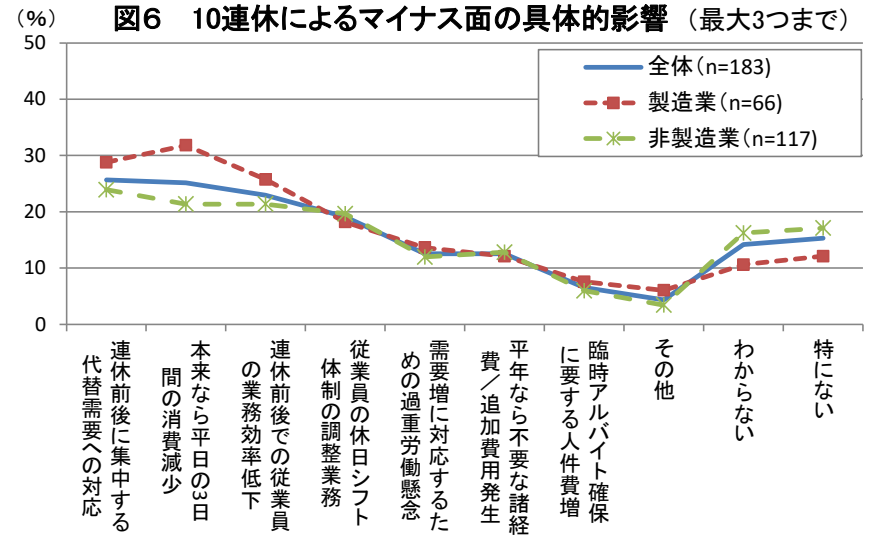


図7 10連休に関する総合的な影響の方向性と程度 \* DI = 「(やや)プラス」 - 「(やや)マイナス」 (%)

